

# 環境影響評価準備書に関する説明

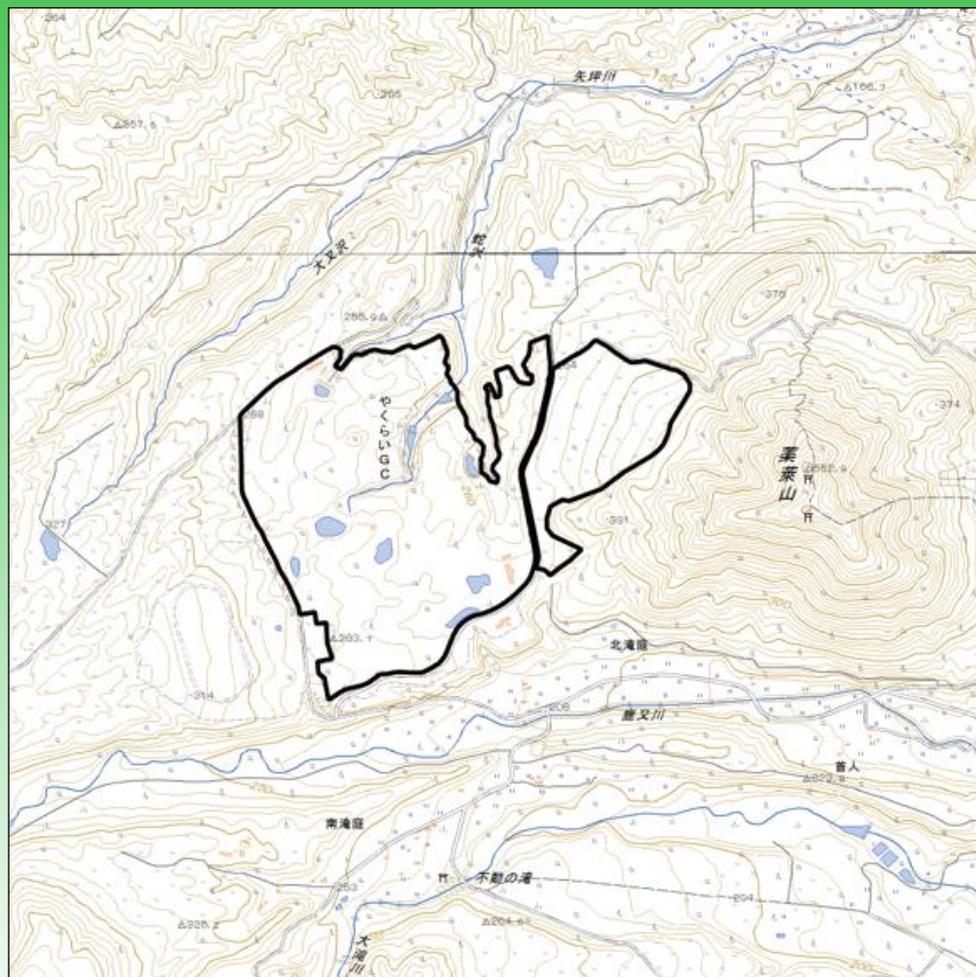
CS宮城やくらいGC太陽光発電事業に係る  
環境影響評価準備書について

CS宮城加美町合同会社

# 事業計画の概要1

## 対象事業の内容

事業の名称	CS宮城やくらいGC 太陽光発電事業
発電所の原動力の種類	太陽電池
発電所の出力	出力 49,990kW（交流最大） 80,000kW（直流最大） 発電機の単機出力 685W 発電機の枚数 約116,800枚（予定）
対象事業実施区域の位置	宮城県加美郡加美町字芋沢、 字鹿原周辺（右図参照）
面積	約146ha（予定）

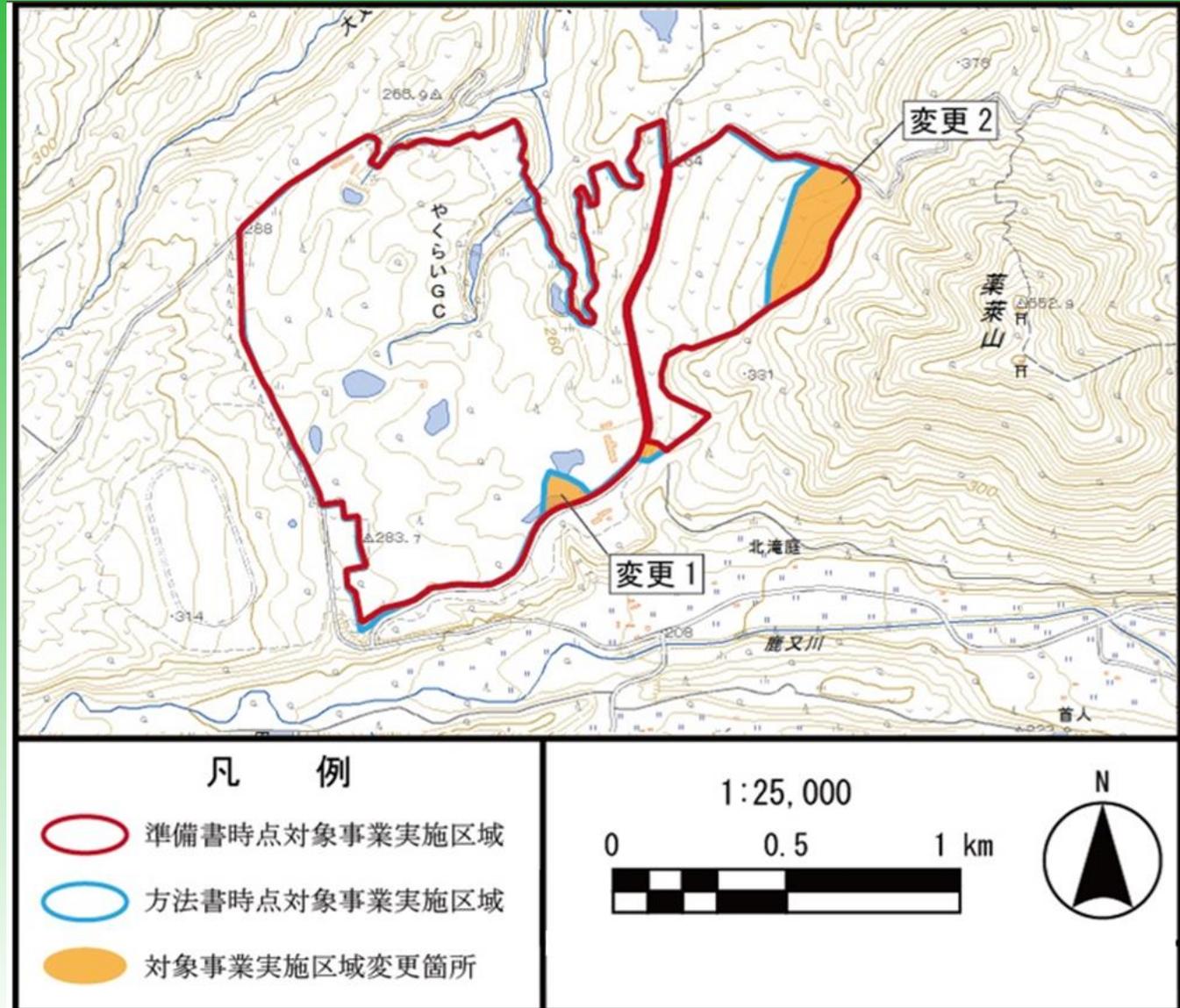


# 事業計画の概要2

対象事業実施区域の変更箇所

変更1  
土石流危険箇所

変更2  
区域東側領域の変更



# 事業計画の概要3

## 事業実施区域の変更箇所に係る検討結果

事業実施区域の変更箇所	変更に関する検討結果
変更1：方法書での土石流危険溪流個所の一部を対象事業実施区域内に編入	<ul style="list-style-type: none"><li>対象事業実施区域に土砂災害防止法に基づく警戒区域等は存在しない。</li><li>調整池への浚渫作業は、当該溪流における土砂災害の危険を軽減する。</li></ul>
変更2：対象事業実施区域東側領域の変更（やくらい山典型地形領域の詳細解釈、埋蔵文化財保全、景観配慮から判断）	<ul style="list-style-type: none"><li>典型地形の範囲は、地質学的には、安山岩の範囲で定義すべきである。</li><li>埋蔵文化財保全方針を確認し、各施設の設置制約条件を確認した。着工前の現地調査によって、太陽光パネル設置個所の縮小可能性がある。</li><li>隣接町道からの景観に最大限配慮が必要である。</li></ul>

**総合的に判断して、変更は妥当であるとなりました。**

# 事業計画の概要3-1 変更1

調整池の浚渫によって、洪水調整機能が強化され、土砂災害の危険を軽減される。  
(宮城県土木部防災砂防課意見)

対象事業実施区域に追加され、浚渫を予定する調整池



-  : 対象事業実施区域
-  : 防災科研による地滑り地形
-  : 防災科研による不安定域または移動域と推定される地形
-  : 土石流に注意が必要な場所

# 事業計画の概要3-2 変更2 やくらい山典型地形

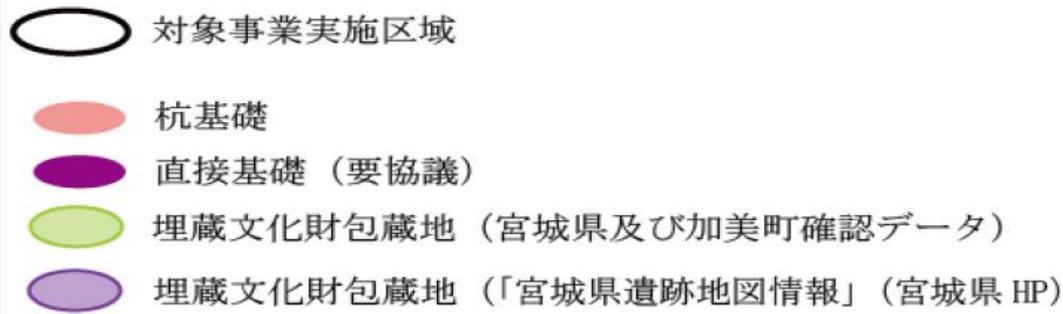
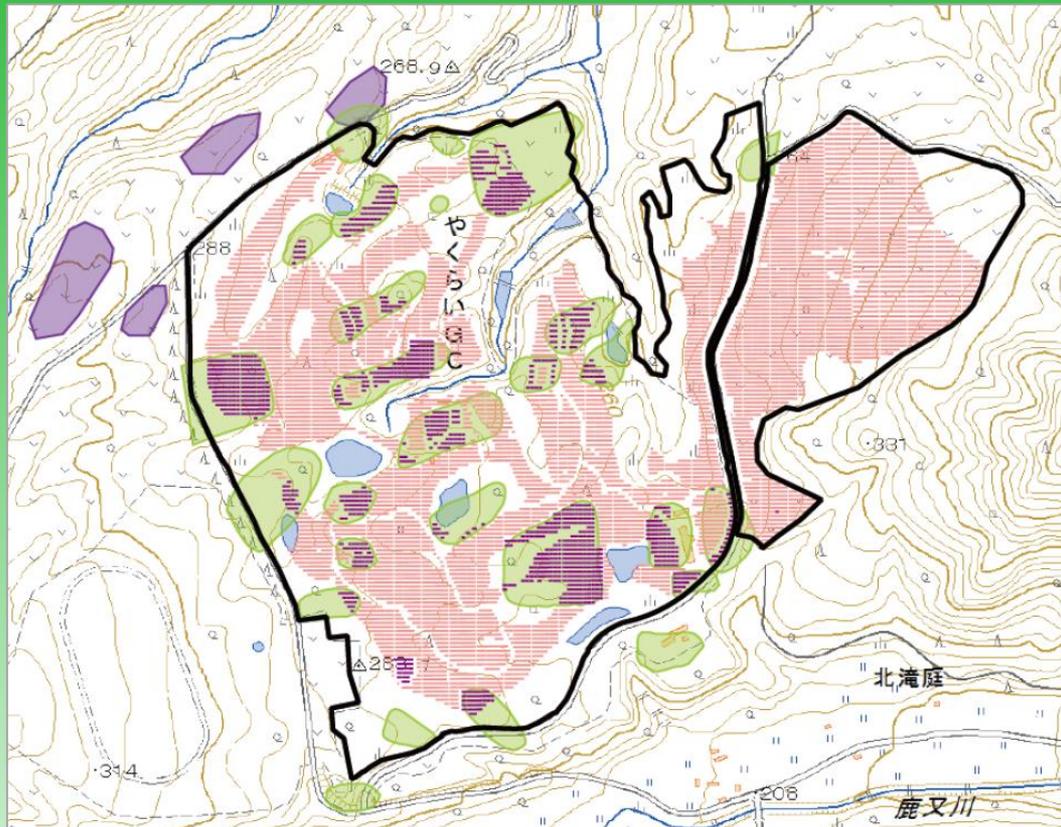
地質学的には、安山岩の範囲で定義すべきである。安山岩質のやくらい山本体と周囲の堆積物との境界は傾斜の変曲点であると言える。

(国立研究開発法人産業技術総合研究所ヒアリング結果)



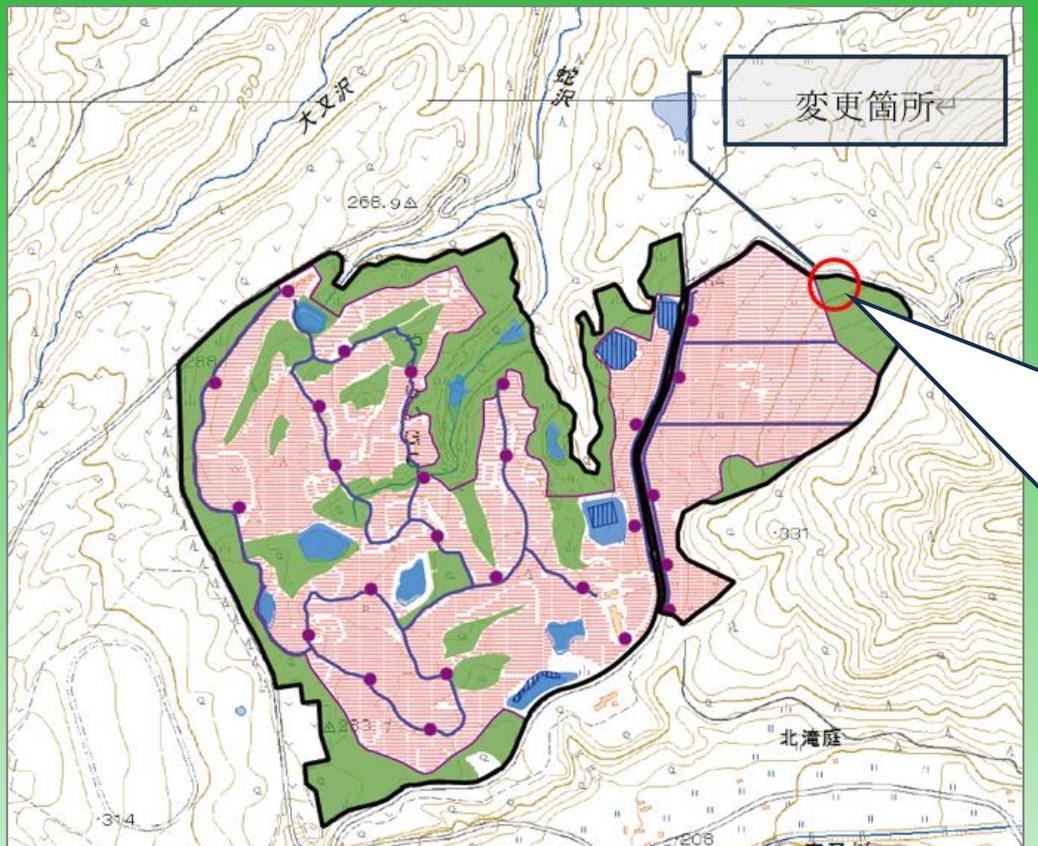
青色着色部：対象事業実施区域  
赤色実線：傾斜量変化地点を結んだ線

# 事業計画の概要3-3 変更2 埋蔵文化財



- 埋蔵文化財包蔵地領域を、過去の発掘調査履歴から再確認
- 太陽光架台基礎タイプの一部は変更（杭基礎→直接基礎）
- 直接基礎の設置可否は、着工までの現地調査を踏まえて判断  
（宮城県文化財課及び加美町生涯学習課）

# 事業計画の概要3-4 変更2 景観



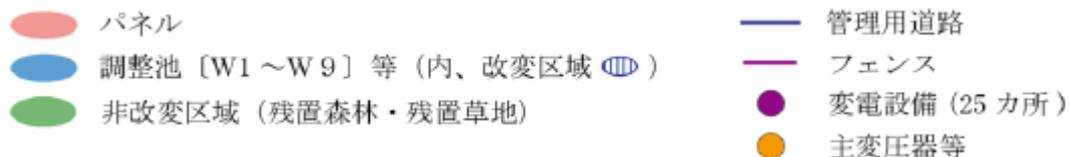
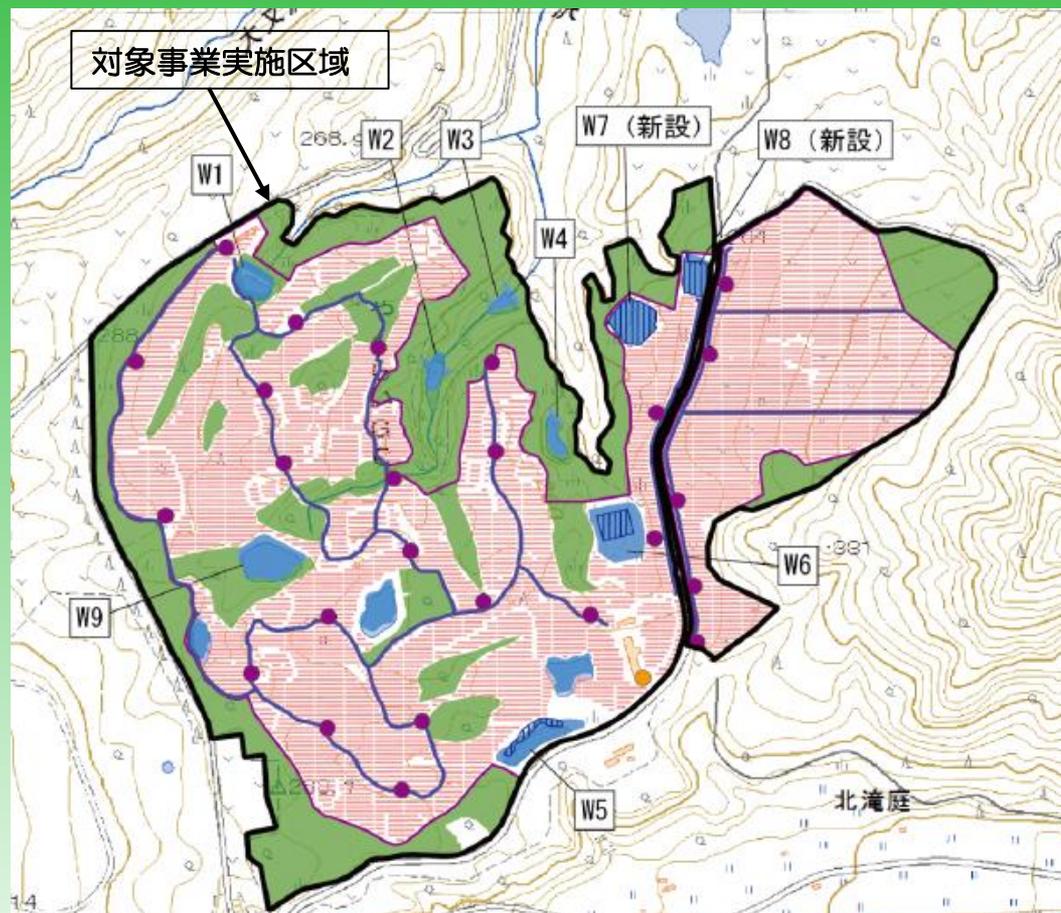
町道からの施設が視認できる  
個所を最小限に抑える



2023年町道からの撮影

# 事業計画の概要4

## 設備の配置計画



- 対象事業実施区域は、日本の典型地形である火山岩頸「薬菜山」を除外した案です。
- 既存の地形を生かし、大規模な造成の少ない計画とします。
- 対象事業実施区域の周囲に残置森林を配置し、周辺住居等への騒音影響やソーラーパネル反射光の影響に配慮します。
- 隣接する道路周辺に、可能な範囲で盛土を施し、太陽光発電施設が通行者から視認できないよう配慮します。
- 対象事業実施区域内に点在する埋蔵文化財遺構に配慮します。
- 変電設備はソーラーパネル設置範囲の各所に、主変圧器は対象事業実施区域の南側付近に配置します。

# 事業計画の概要5

## 工事計画

主な工事の内容は次のとおりです。

- 造成基礎工事：機材搬入路及び管理道路整備、ヤード造成、  
防災施設機能改良工事、基礎工事
- 架台据付工事：架台工事、太陽電池発電設備据付工事
- 電気工事：送電線工事、所内配電線工事、変電施設工事、電気工事

工事工程は次のように予定しています。

造成基礎工事期間：着工後 28か月間程度（2025年 4月～2027年 7月）

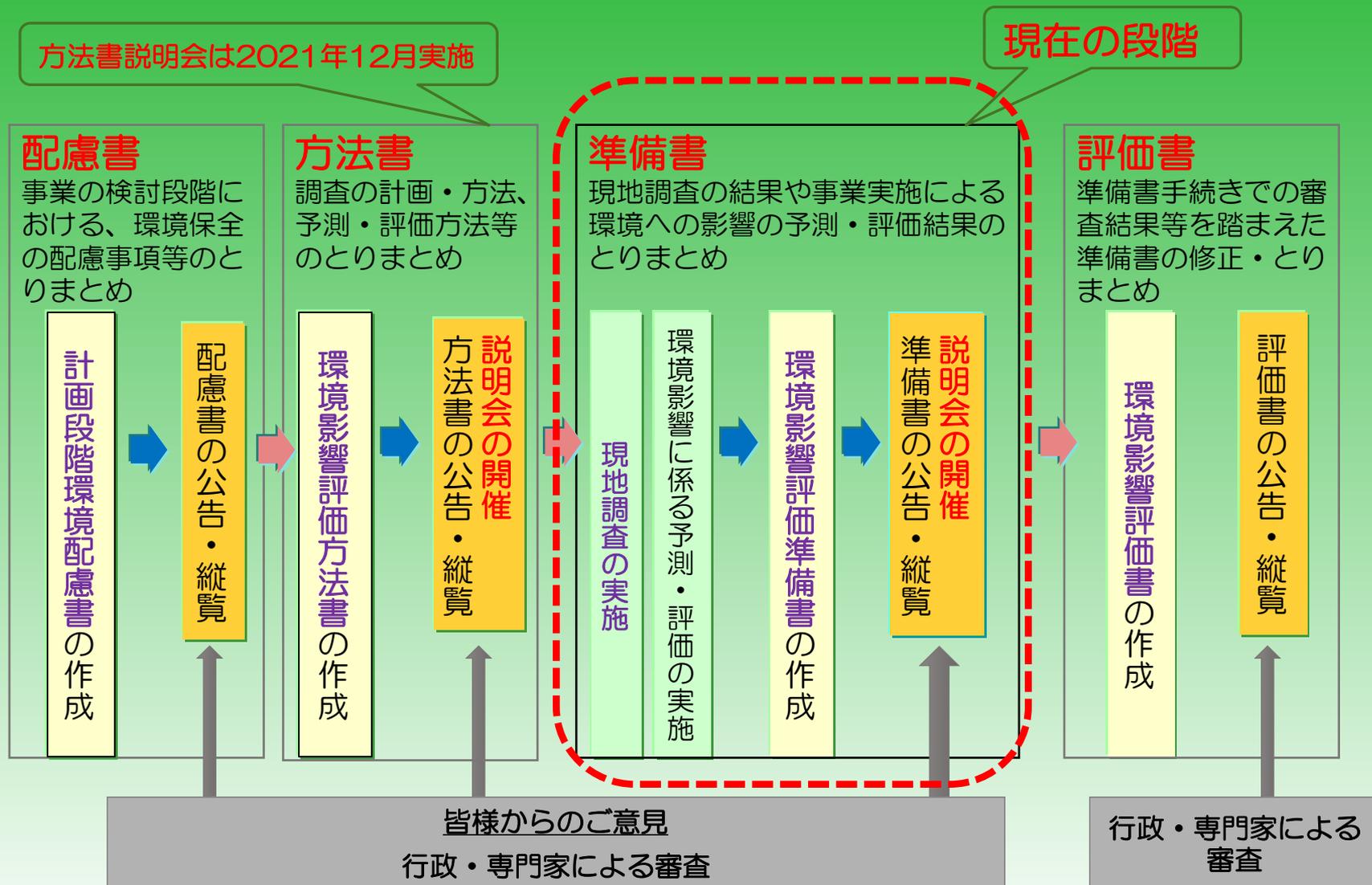
架台据付工事期間：着工後 24か月間程度（2025年 8月～2027年 7月）

電気工事期間：着工後 30か月間程度（2025年 4月～2027年 9月）

試験運転期間：2か月間程度（2027年 10月～同11月）

商業運転開始：工事着工後から32か月後程度（2027年 12月）

# 環境影響評価手続きの概要



# 環境影響評価手続きの経過

## ●環境影響評価に係る計画段階環境配慮書手続きの経過

2021年 6月 5日～7月 6日 計画段階環境配慮書の縦覧

7月 29日 宮城県知事意見

8月 31日 経済産業大臣意見

## ●環境影響評価に係る方法書手続きの経過

2021年11月 25日～12月 24日 環境影響評価方法書の縦覧

2022年 4月 28日 宮城県知事意見

5月 23日 経済産業大臣意見

## ●現地調査期間

2022年 4月～2023年 8月 (猛禽類の先行調査は2021年12月から実施)

# 環境影響評価を実施した項目

## ●環境影響評価の項目の選定

環境要素の区分			影響要因の区分			工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用	
			工事用資材等の出入	建設機械の稼働	造成等の一時的な影響	地形改変及び施設の存在	施設の稼働			
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	大気環境	大気質	粉じん等	○	○					
		騒音	騒音	○	○				○	
		振動	振動	○	○					
	水環境	水質	水の濁り			○	○			
	その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質				○			
		地盤	土地の安定性				○			
その他		反射光				○				
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	動物		重要な種及び注目すべき生息地			○	○			
	植物		重要な種及び重要な群落			○	○			
	生態系		地域を特徴づける生態系			○	○			
人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	景観		主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観				○			
	人と自然との触れ合いの活動の場		主要な人と自然との触れ合いの活動の場	○			○			
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素	廃棄物等		産業廃棄物			○	○			
			残土			○				
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき環境要素	放射線の量（空間線量率、放射性物質濃度）		粉じん等の発生に伴うもの	○	○					
			水の濁りの発生に伴うもの		○	○				
			産業廃棄物の発生に伴うもの			○				
			残土の発生に伴うもの			○				

# 大気質・騒音・振動

## 大気質・騒音・振動の調査地点



● 環境の調査地点

● 道路沿道の調査地点

環境の地点で調査を行い、工事による建設機械・施設の稼働による影響を予測しました。

沿道の地点で調査を行い、工事関係車両の走行による影響を予測しました。

# 大気質

## ○工事関係車両の走行による影響

降下ばいじん

単位：t/（km<sup>2</sup>・月）

予測地点	将来予測値将来予測値（括弧内は現地調査の値）		
	春季	夏季	秋季
沿道	2.71（1.27）	3.79（2.09）	2.78（0.31）

▶参考とした指標の20t/（km<sup>2</sup>・月）を下回ります。

道路環境影響評価の技術手法（国土技術政策総合研究所（国土交通省））の指標を参考にしています。

## ○建設機械の稼働による影響

降下ばいじん

単位：t/（km<sup>2</sup>・月）

予測地点	将来予測値将来予測値（括弧内は現地調査の値）		
	春季	夏季	秋季
環境	2.65（1.11）	3.92（1.76）	4.29（0.26）

▶参考とした指標の20t/（km<sup>2</sup>・月）を下回ります。

道路環境影響評価の技術手法（国土技術政策総合研究所（国土交通省））の指標を参考にしています。

# 騒音・振動1

## ○工事関係車両の走行による影響

騒音レベル ( $L_{Aeq}$ )

単位：デシベル

予測地点	時間の区分	現況実測値 (一般車両)	補正後将来予測値 (一般車両+工事車両)	環境基準 (参考)	要請限度 (参考)
沿道	平日昼間 (6時~22時)	59	61	70	75
	土曜日昼間 (6時~22時)	60	61	70	75

▶参考とした国の定める環境基準、要請限度を下回ります。

環境基準は「騒音に係る環境基準について（平成10年環境庁告示第64号）」、要請限度は騒音規制法（昭和43年法律第98号）で定められています。

振動レベル ( $L_{10}$ )

単位：デシベル

予測地点	時間の区分	現況実測値 (一般車両)	補正後将来予測値 (一般車両+工事車両)	要請限度 (参考)	
沿道	平日	昼間 (8~19時)	25未満	25未満	65
		夜間 (7~ 8時)	25未満	27	60
	土曜日	昼間 (8~19時)	25未満	25未満	65
		夜間 (7~ 8時)	25未満	27	60

▶参考とした国の定める要請限度を下回ります。

要請限度は振動規制法（昭和51年法律第64号）で定められています。

# 騒音・振動2

## ○建設機械の稼働による影響

騒音レベル ( $L_{Aeq}$ )

単位：デシベル

予測地点	現況実測値	建設機械の稼働に伴う騒音レベル	将来予測値	環境基準（参考）
環境	44	64	64	65

▶参考とした国の定める環境基準を下回ります。

環境基準は「騒音に係る環境基準について（平成10年環境庁告示第64号）」で定められています。

振動レベル ( $L_{10}$ )

単位：デシベル

予測地点	現況実測値	建設機械の稼働に伴う振動レベル	規制基準（参考）
環境	25未満	54	75

▶参考とした国の定める規制基準を下回ります。

規制基準は振動規制法（昭和51年法律第64号）で定められています。

## ○施設の稼働による影響

騒音レベル ( $L_{Aeq}$ )

単位：デシベル

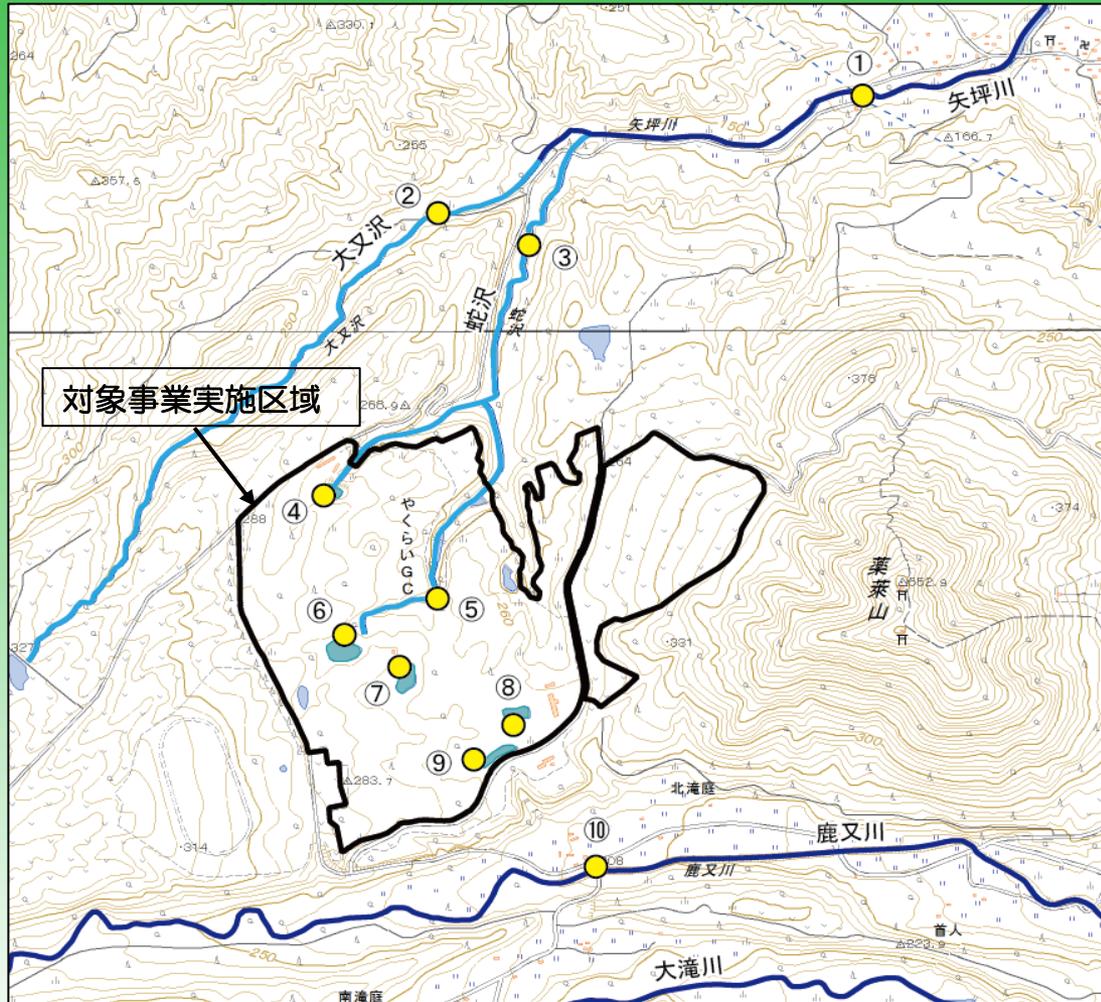
予測地点	現況実測値	施設の稼働に伴う騒音レベル	将来予測値	環境基準（参考）
環境	44	47	49	65

▶参考とした国の定める環境基準を下回ります。

環境基準は「騒音に係る環境基準について（平成10年環境庁告示第64号）」で定められています。

# 水質1

## 水質の調査地点



● 水質の調査地点

河川、調整池の各地点で調査を行い、造成等の施工による一時的な影響、地形改変・施設の存在による影響を予測しました。

# 水質2

## 水質の予測結果概要

降雨後に調整池からの放流があった場合の予測結果

予測地点	降雨量 (mm/h)	浮遊物質濃度 (mg/L)		
		流入前の河川	流入後の河川	
			造成等の施工による 一時的な影響	地形改変及び 施設の存在
③ 蛇沢	5.5	31	105	32
⑩ 鹿又川	5.5	24	25	24

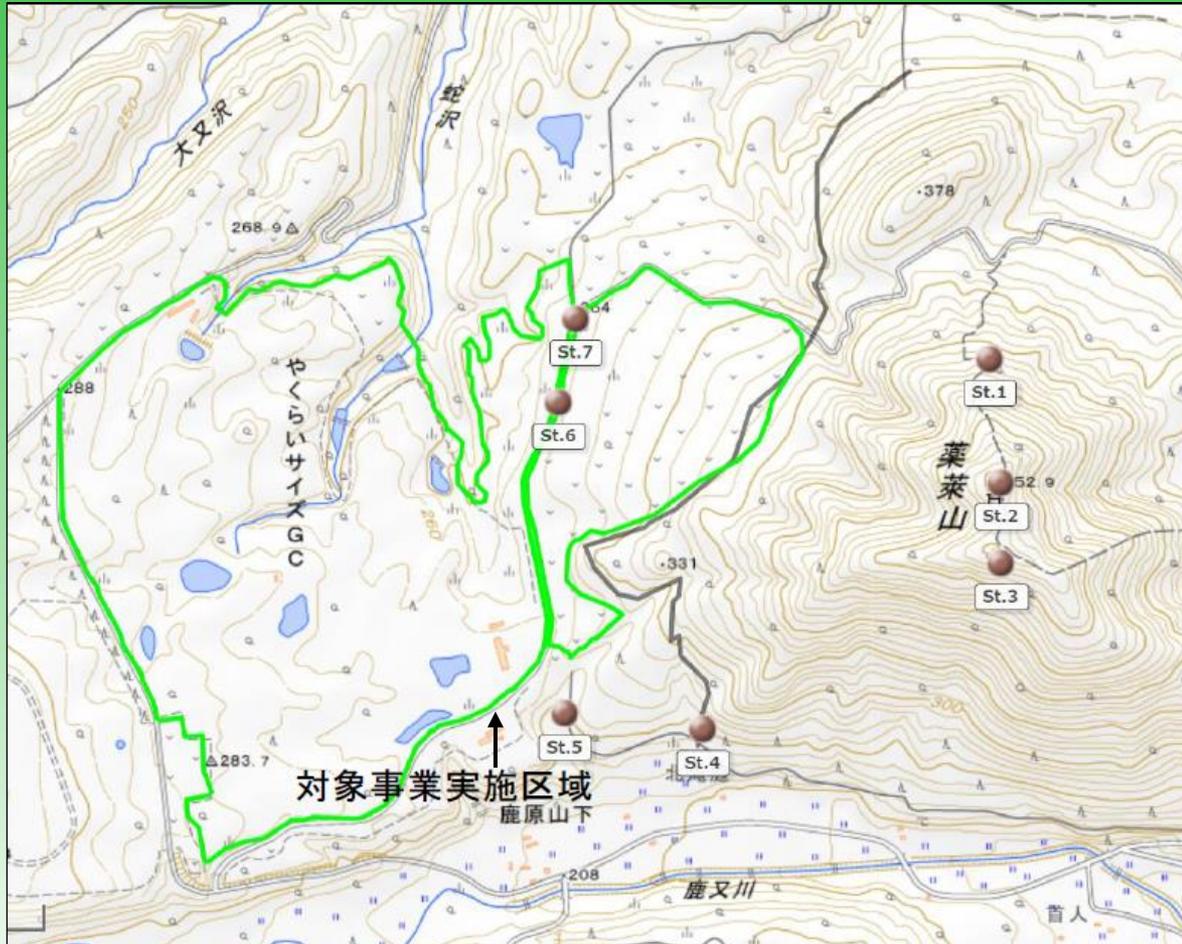
▶ 工事期間中の調整池は流量調整能力を考慮しない予測結果であり、今後各調整池で設計放流量を適正に設定し、調整池内での濁水滞留時間を長くするとともに、一度に放流する排水量を制限する計画です。

▶ 調整池の流量調整能力を考慮すれば、周辺環境への影響は低減され、造成期間中の蛇沢への影響は低減できます。

▶ 供用時は裸地も緑化されるので、濁水発生濃度が小さくなり、環境影響も小さいです。

# 地形・地質1

## 地形・地質の調査地点



● 地形・地質の調査地点

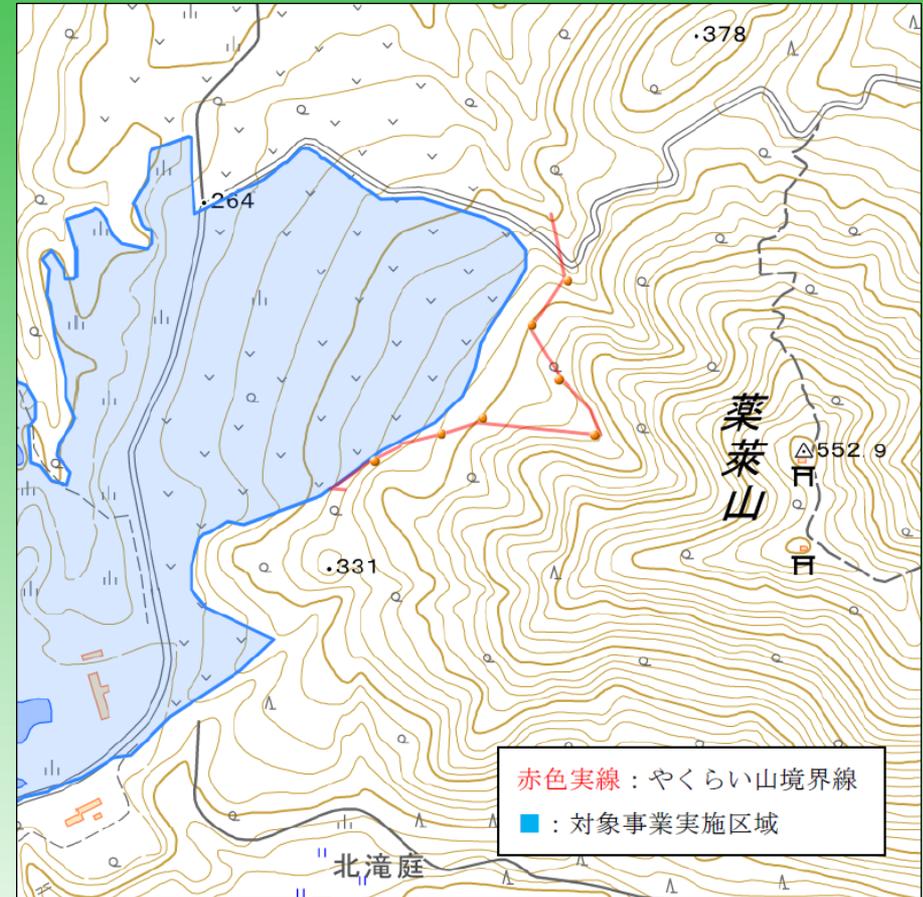
「日本の典型地形」である「やくらい山」があるため、地形・地質の状況調査を行い、事業実施による影響を予測しました。

# 地形・地質2

## 地形・地質の予測結果

専門家ヒアリングの知見を基に、現地調査結果、地質図、傾斜量図を総合的に判断した、やくらい山山体の境界線は右図に示す赤色実線であり、やくらい山の山体はこの実線の東側と考えられます。

対象事業実施区域はやくらい山山体と地質が異なり、山体と重複しないことから、やくらい山山体の地形・地質は保全されると予測します。



P6から再掲

# 地盤（土地の安定性）

## 地盤の予測結果

対象事業実施区域の地盤は0.6m以深で構造物を支えるのに十分なN値10以上の地盤です。

太陽光パネルを支える支持力としては粘性土では5以上あれば十分です。土砂災害に関係する地すべり地形、土石流に注意が必要な場所はありません。

現在のゴルフ場の造成は最小規模とし、やくらい山山麓斜面は土砂流出留めを施工します。

施設の存在が地盤に及ぼす影響は低減されていると予測します。

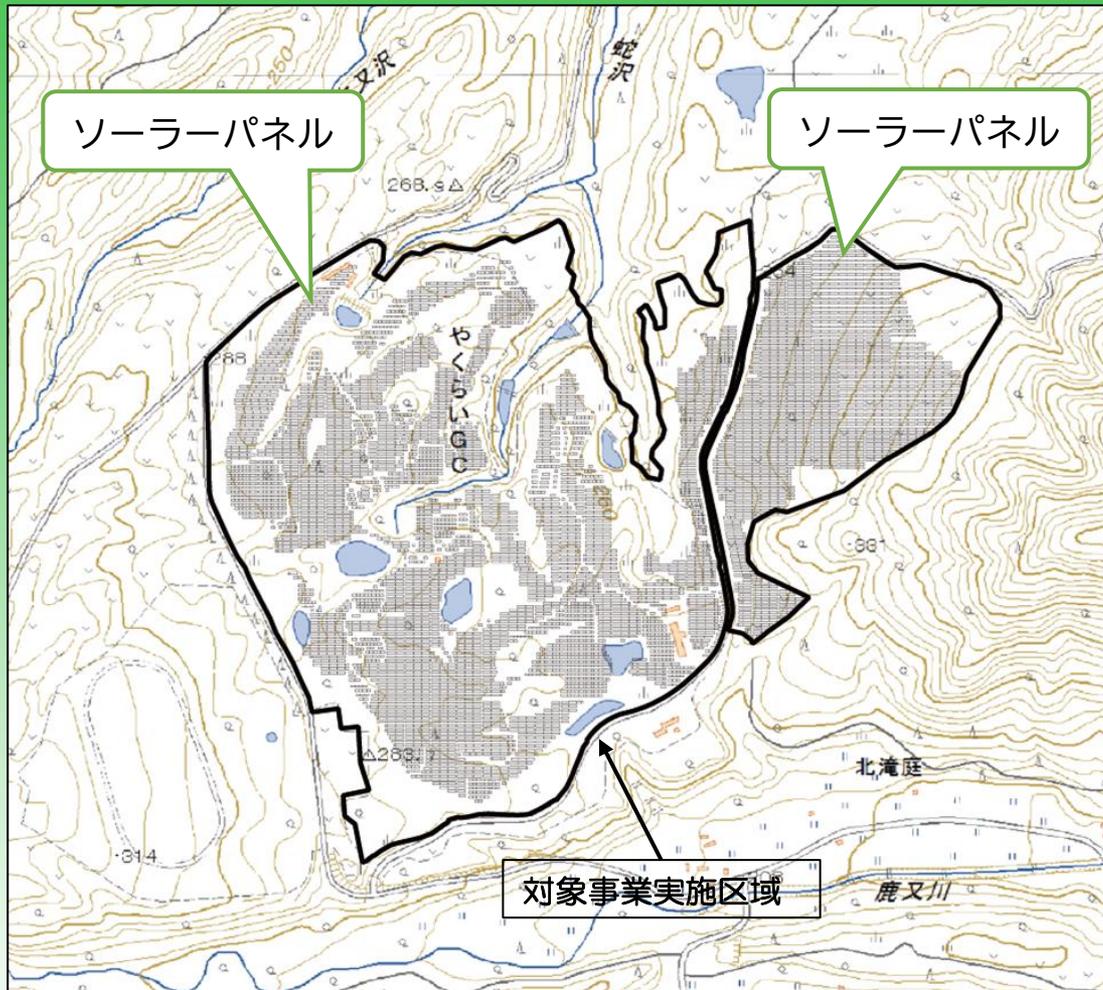


- : 対象事業実施区域
- : 防災科研による地すべり地形
- : 防災科研による不安定域または移動域と推定される地形
- : 土石流に注意が必要な場所

P5から再掲

# 反射光

## ソーラーパネルの設置範囲と予測結果概要



学校、医療機関、福祉施設等、配慮が必要な施設は近くにありません。

予測条件

- ①架台水平高：地上1.5m
- ②傾斜角：25度
- ③設置方位：南向き
- ④予測対象高さ：地上2m

夏至、春分・秋分、冬至の反射光の到達範囲及び継続時間は確認されませんでした。

対象事業実施区域周辺の住宅等では、**反射光による影響範囲はない**と予測します。

# 動物 1

現地調査で確認された種数及び重要な種は次のとおりです。

項目	確認種数	重要な種
哺乳類	7目12科17種	ヒナコウモリ科1の一種、ヒナコウモリ科2の一種、カモシカの全3種
鳥類	16目41科 114種	オシドリ、チュウサギ、ヨタカ、ハリオアマツバメ、オオジシギ、ミサゴ、ハチクマ、オジロワシ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、クマタカ、アカショウビン、チゴハヤブサ、ハヤブサ、サンショウクイ、ノジコの全18種
爬虫類	1目4科7種	該当なし
両生類	2目6科11種	トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオ、アカハライモリ、タゴガエル、ヤマアカガエル、トウキョウダルマガエル、ムカシツチガエルの全7種
昆虫類	17目226科 914種	コノシメトンボ、キトンボ、ヒメシロシタバ、ゲンゴロウ、ヒメミズスマシ、タグチホソヒラタハムシの全6種
魚類	4目6科13種	スナヤツメ北方種、テツギョ、ドジョウ、ホトケドジョウ、ニッコウイワナ、サクラマス（ヤマメ）、カジカ、ハナカジカの全8種
底生動物	20目86科 216種	ミドリビル、ヒメサナエ、キトンボ、ホッケミズムシ、コオイムシ、ゲンゴロウ、コガムシ、ガムシの全8種

重要な種とは、「文化財保護法」、「宮城県文化財保護条例」及び「加美町文化財保護条例」に基づく天然記念物、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」に基づく国内希少野生動植物種、「環境省レッドリスト2020」の掲載種、「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト2023年版-」の掲載種のいずれかに該当する種のことを指す。

# 動物2

## 動物の予測結果概要

現地調査で確認された重要な種（哺乳類3種、鳥類18種、両生類7種、昆虫類6種、魚類8種及び底生動物8種）を予測対象種とし、以下に示す環境影響要因から予測対象種に応じて影響を予測したところ、**事業の実施による影響は小さい**ものと考えられます。

- 改変による生息環境の減少・喪失
- 移動経路の遮断・阻害
- 騒音による生息環境の悪化
- 騒音による餌資源の逃避・減少
- 工事関係車両への接触
- 濁水の流入による生息環境の悪化

# 植物

## 植物の予測結果概要

項目	現地調査で確認された重要な種
維管束植物	エビネ、サルメンエビネ、Calanthe（エビネ）属、クマガイソウ、コツブヌマハリイ、ヒナザサ、シラネアオイ、スハマソウ、タチモ、イヌタヌキモ、ムラサキニガナの全10種

現地で確認された重要な種（10種）を予測対象種とし、以下に示す環境影響要因から予測対象種に応じて影響を予測したところ、**事業の実施による影響はほとんどない又は小さいものと考えられます。**

- ・ 改変による生育環境の減少・喪失
- ・ 濁水の流入による生育環境の悪化

なお、重要な群落は、対象事業実施区域と重複せず、事業の実施による影響はありません。

# 生態系

## 生態系の予測結果概要

現地調査結果をもとに、生態系の上位性の観点からノスリ、典型性の観点からカウ類、ホオジロを選定し、事業による生態系への影響を予測しました。

ノスリ：上位性

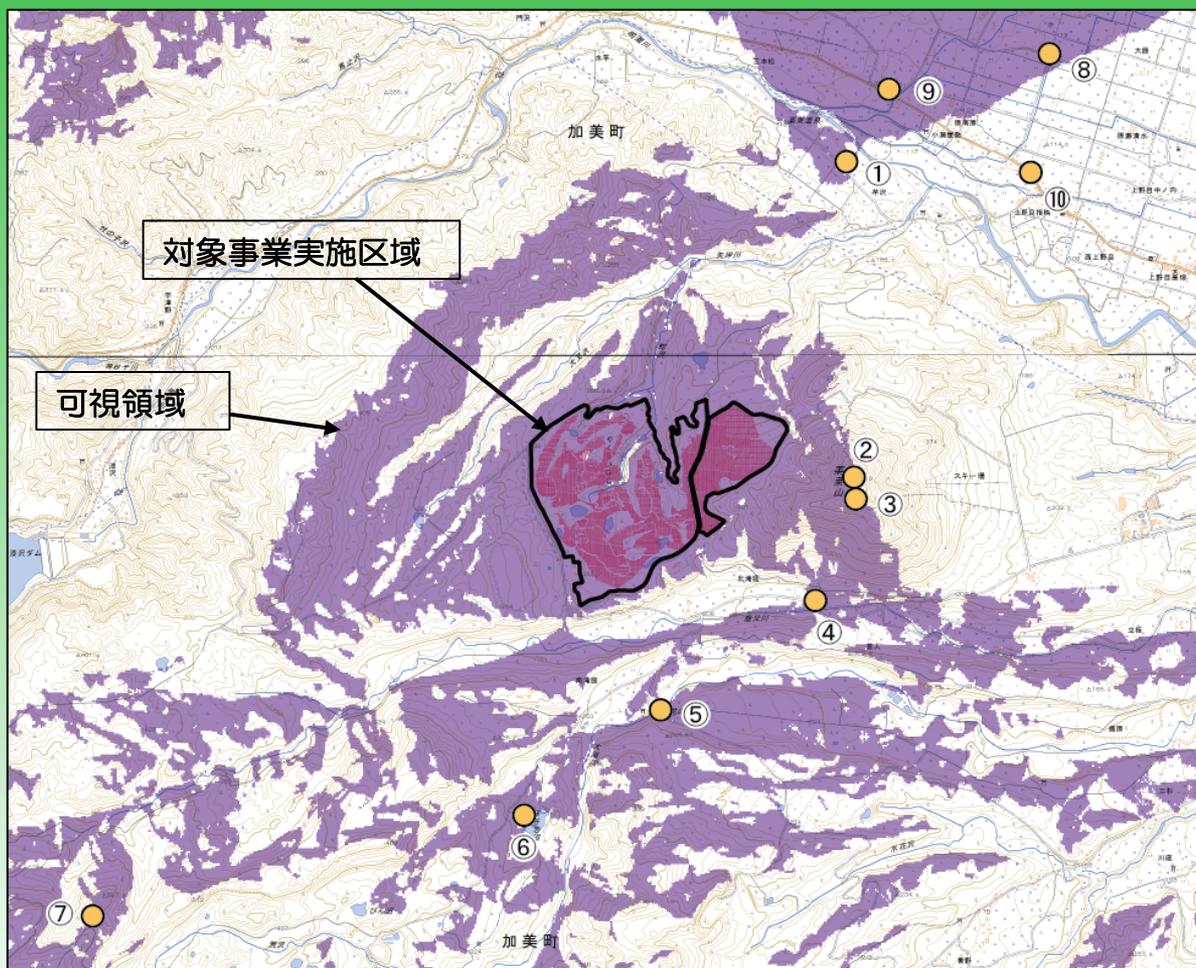
予測項目	予測結果
採餌環境	事業実施による影響が及ばない好適な環境が周囲に分布していることから、影響の程度は小さいものと考えられます。
餌資源量	餌資源量（ネズミ類）は、芝地における減少率が高くなるものの、改変部から離れた西側及び北側等に餌資源が確保できる好適な環境が存在していることから、影響の程度は小さいと考えられます。

カウ類、ホオジロ：典型性

予測項目	予測結果
生息環境	好適な環境が減少するものの、事業の実施による影響が及ばない好適な環境も存在していることから、生息環境は維持されると考えられます。
餌資源量	餌資源量（昆虫類及び土壌動物）は減少するものの、太陽光パネル下やパネル間の空間には草地が一定程度保たれ、対象事業実施区域の周囲にも餌場となりうる環境が存在していることから、餌資源量は維持されると考えられます。

# 景観

## 景観の調査地点と予測結果概要



### 調査地点

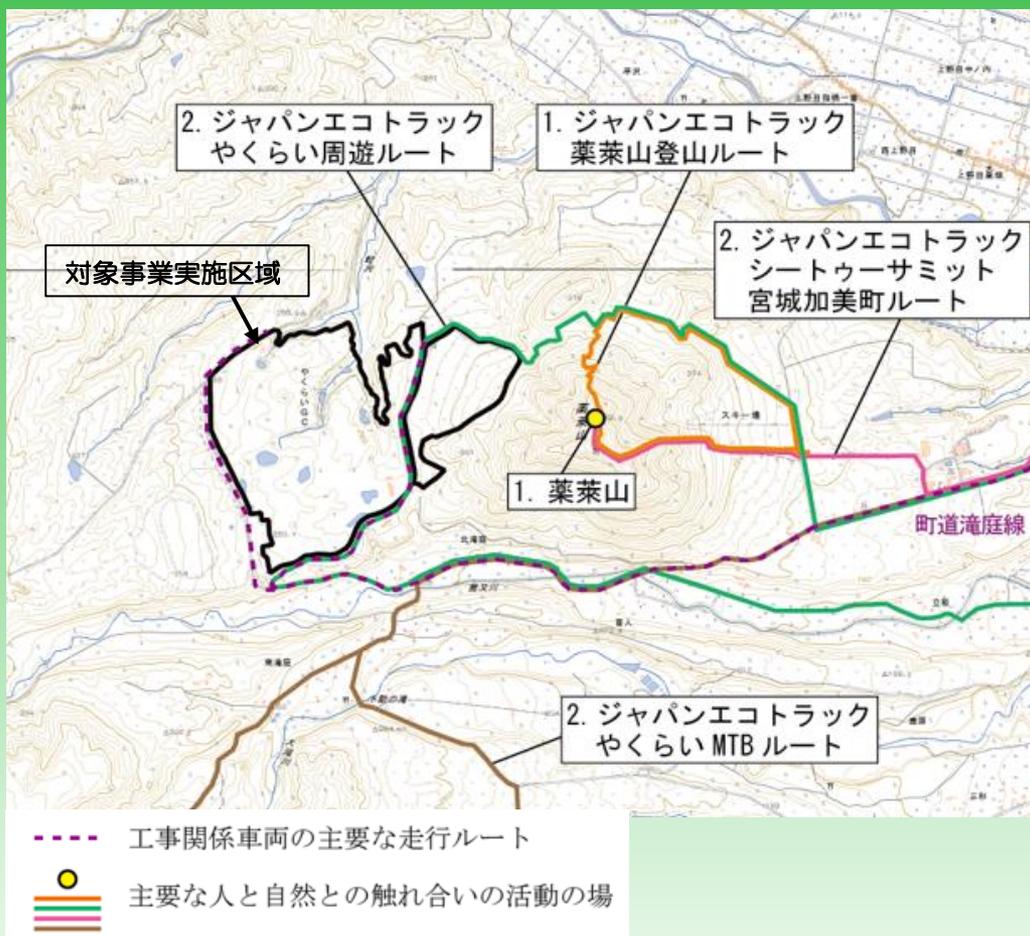
- ① 芋沢地区
- ② やくらい山頂上付近
- ③ やくらい山神社奥宮
- ④ 鹿原地区
- ⑤ つり橋（滝見の橋）
- ⑥ 荒沢自然館
- ⑦ 林道近く
- ⑧ 原地区
- ⑨ 門沢地区
- ⑩ 小瀬地区

いずれの地点からも、対象事業実施区域は、視認することができず、施設設置による眺望景観への変化はないと予測します。

可視領域は、地上の樹木、建物等の高さを考慮しないで、地点ごとの標高の差だけで見える範囲を図示したものです。

# 人と自然との触れ合いの活動の場

## 人と自然との触れ合いの活動の場の調査地点と予測結果概要



「薬菜山」と「ジャパンエコトラック 薬菜山登山ルート」については併せて「1」、  
「ジャパンエコトラック」のうち「やくらい周遊ルート」、「シートゥーサミット宮城加美町ルート」、「やくらいMTBルート」については併せて「2」として記載した。

### 工事用資材等の搬出入による影響

工事関係車両の台数低減を図る、道路交通騒音の低減を図る、アクセスが集中する可能性のあるイベントの開催時は工事関係車両の走行をできる限り控える等の環境保全措置により、**主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用及びアクセスは阻害されないと予測します。**

### 地形改変及び施設の存在による影響

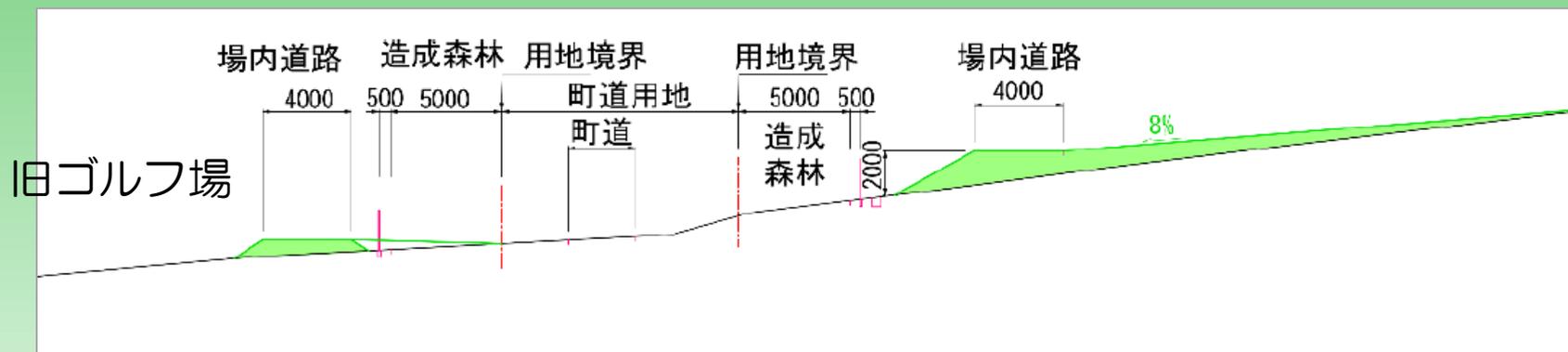
主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している範囲には極力改変が及ばない計画とし、変化は「やくらい周遊ルート」の一部区間にとどめていること、他の地点は離隔を確保し、かつ景観や騒音の変化にも配慮していることから、**主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用は阻害されないと予測します。**

# 人と自然との触れ合いの活動の場

## エコトラック「やくらい周遊ルート」隣接部への対応

景観への影響が一番出てくると想定される個所（既存クラブハウスおよび駐車場近辺）における対応

当該箇所通行時に、発電所施設が極力視認できないよう、周辺に盛土を実施し、かつ、既存町道と事業地間に造成森林を設けます。



断面図中央の町道がエコトラック「やくらい周遊ルート」を示す

# 廃棄物等 1

## 産業廃棄物の予測結果概要

### 工事の実施

(単位：t)

種 類	発生量	有効利用量	処分量	備考(中間処理方法、再生利用方法)
廃プラスチック類	0.70	0.61	0.09	分別回収、リサイクル
金属くず	9.04	9.04	0.00	業者へ売却、古物商へ引き渡し
ガラスくず及び陶磁器くず	4.80	0.00	4.80	産業廃棄物処理業者に委託し、適正に処理
がれき類(コンクリート殻、アスファルト殻)	88.80	87.92	0.88	中間処理方法：再生砕石等
紙くず(段ボール)	6.80	6.80	0.00	分別回収、リサイクル
木くず(型枠・丁張残材)	2.20	2.20	0.00	燃料としてリサイクル
木くず(伐採木)	11.00	11.00	0.00	原則対象事業実施区域内で有効利用
合 計	123.34	117.57	5.77	再資源化率 95.3%

### 太陽電池発電事業の終了時

(単位：t)

種 類	発生量	有効利用量	処分量	備考(中間処理方法、再生利用方法)
金属くず	4,500	4,500	0	業者へ売却、古物商へ引き渡し
ソーラーパネル	3,900	2,991	909	業者へ売却、古物商へ引き渡し
コンクリート殻	59,500	59,203	298	産業廃棄物として処理
合 計	67,900	66,694	1,206	有効利用率 約98.2%

# 廃棄物等2

## 残土の予測結果概要

工事種類	計画土量	処理方法
発生量（切土、掘削）	56,100m <sup>3</sup>	施工時に土量変化率を都度確認し、残土が発生しないよう、盛土内容を調整する予定です。
再利用等（盛土）	61,700m <sup>3</sup>	
残土量	0m <sup>3</sup>	

切土・掘削による発生量は56,100m<sup>3</sup>ですが、掘削土の全量を調整池の堤体の盛土に使用するなど、場内で有効利用する事から残土は発生しないと予測します。

# 放射線の量1

## 空間線量率の状況と予測結果概要



- 対象事業実施区域
- 空間線量率調査地点
- 住宅等
- 工事関係車両の主要な走行ルート

調査地点でのガンマ線の空間線量率

建設1：0.05  $\mu\text{Sv/h}$

建設2：0.06  $\mu\text{Sv/h}$

建設3：0.04  $\mu\text{Sv/h}$

建設4：0.06  $\mu\text{Sv/h}$

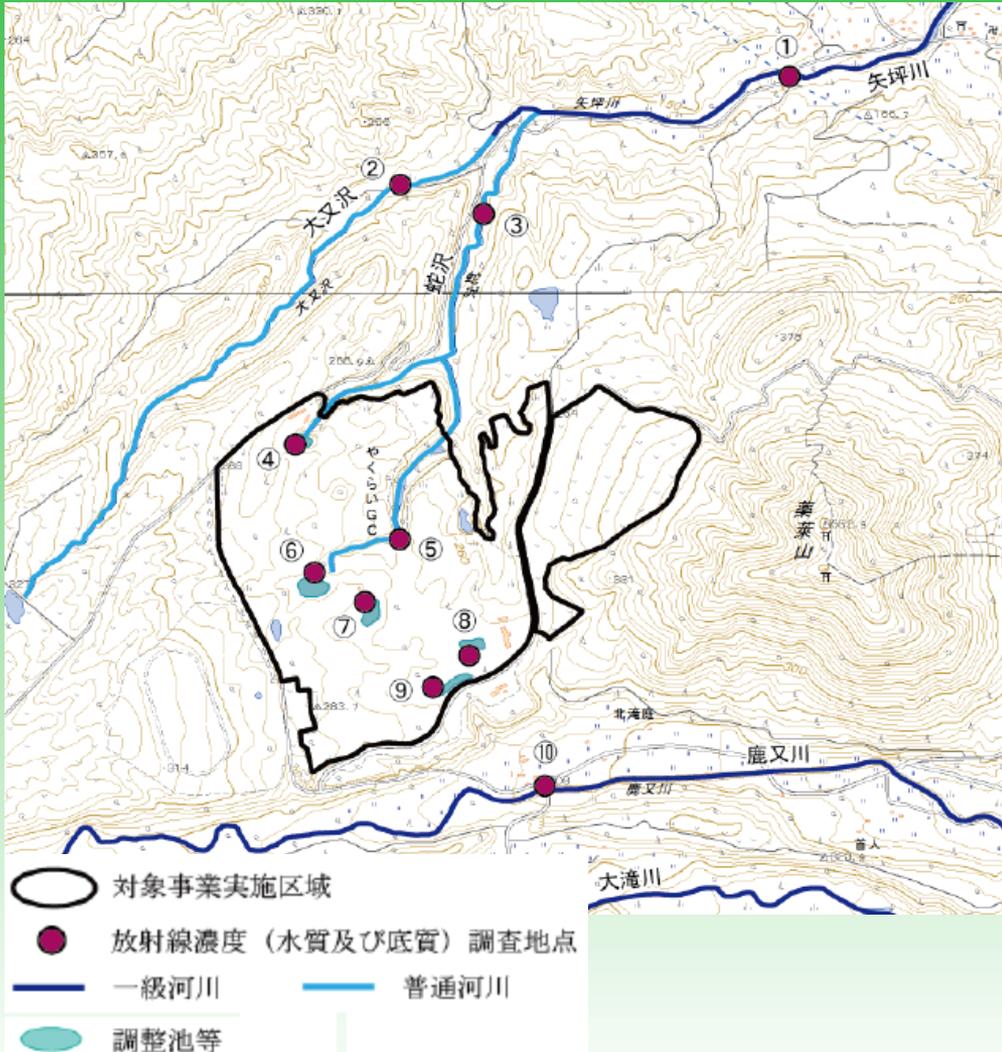
沿道：0.04  $\mu\text{Sv/h}$

環境省が示している空間線量率の値は0.23  $\mu\text{Sv/h}$ です。

工事関係車両については、適宜車両のタイヤ洗浄や工事用道路の散水等を行うこと、建設機械の稼働については、切土量と盛土量のバランスをとって建設発生土を抑制すること、必要に応じて散水を行うこと等により、放射性物質を含む粉じん等による放射線量の上昇は生じないと予測します。

# 放射線の量2

## 水質・底質の放射線の状況と予測結果概要



水質中では、放射性ヨウ素、放射性セシウムともに検出されませんでした。

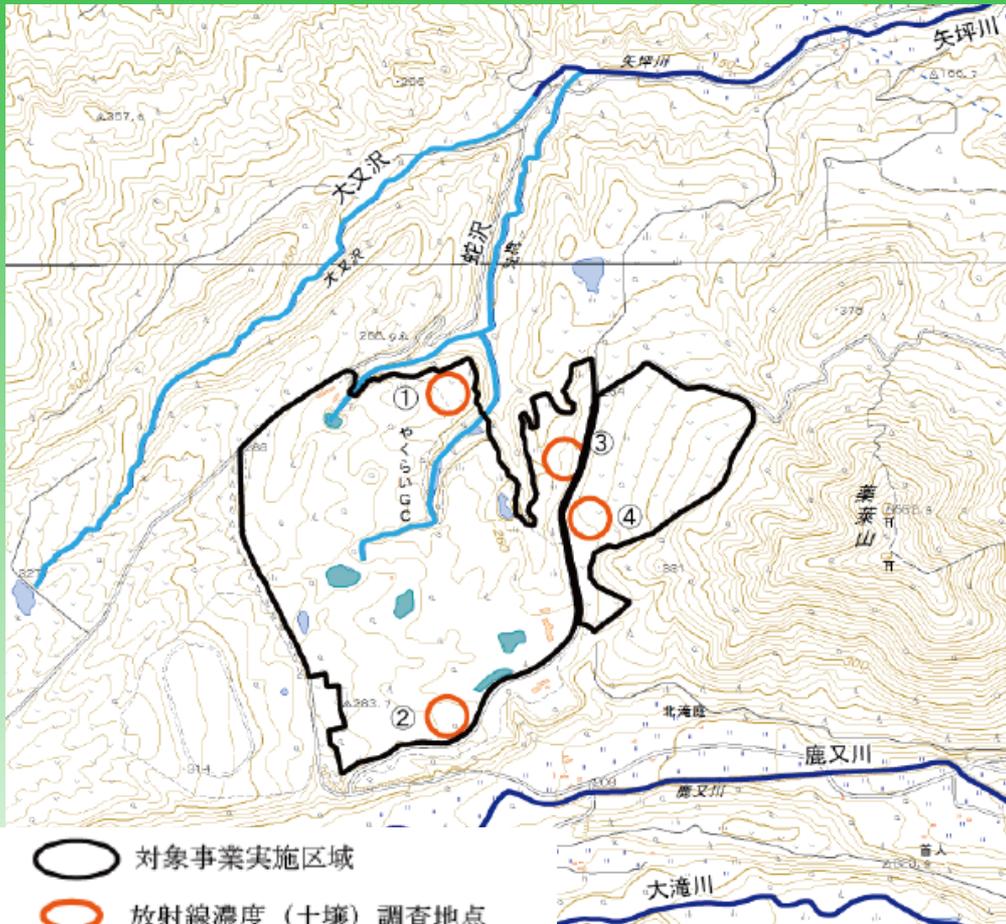
底質中では、放射性ヨウ素は検出されませんでした。放射性セシウムは地点②、⑥以外で検出されましたが、参考とした基準を下回っていました。

建設機械の稼働、造成等の施工による一時的な影響

造成面積、伐採面積を小さくし、必要に応じて土砂流出防止柵等を適所に設置するなど、降雨時における土砂の流出を抑制すること、浚渫を伴う場合も底質の測定値が低いことから、放射性物質を含む水質・底質による放射線の量の上昇は生じないと予測します。

# 放射線の量3

## 土壌の放射線の状況と予測結果概要



表層、地層0~1cm、1~2cmの土壌の放射線量を調査しました。放射性ヨウ素は検出されませんでした。

放射性セシウムは、全地点で検出されましたが、参考とした基準を下回っていました。

### 造成等の施工による一時的な影響

造成面積、伐採面積を小さくし、工事に伴う発生土は全て盛土等に利用します。産業廃棄物は可能な限り有効利用に努め、発生量を低減することから、放射性物質を含む土壌による放射線の量（産業廃棄物及び残土の発生に伴うもの）の上昇は生じないと予測します。

参考となる基準：放射性物質汚染対処特別措置法（平成23年法律第110号）に基づいて定められている「8000Bq/kg」。

# 環境影響の総合的な評価

本事業の実施が環境に及ぼす影響の評価の観点は、次のとおりです。

「本事業による環境に与える影響が事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減されていること」

「国又は地方公共団体による環境の保全の観点からの施策によって、選定した環境影響評価の項目の環境要素に関して基準又は目標が定められている場合には、当該基準又は目標と予測結果との間で整合が図られていること」

上記の観点をもとに、工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用が環境に及ぼす影響について選定項目ごとに調査・予測・評価しました。

総合的な評価としては、実行可能な範囲内で環境影響を低減しており、国又は地方公共団体が定めている環境基準及び環境目標等の維持・達成に支障を及ぼすものではなく、本事業の計画は適正であると評価します。

# CS宮城やくらいGC太陽光発電事業に係る 環境影響評価準備書の縦覧・ご意見募集について

# 準備書の縦覧場所と縦覧期間等について

## \* 縦覧場所

- 宮城県庁（環境生活部環境対策課）
- 加美町役場（本庁舎、小野田支所、宮崎支所）

- インターネット（電子縦覧）

[https://canadiansolar-energy.co.jp/news\\_release/2024/2163.html](https://canadiansolar-energy.co.jp/news_release/2024/2163.html)

## \* 縦覧期間

2024年 4月 12日（金）～2024年 5月 13日（月） 開庁時間内

## \* 意見募集期間

2024年 4月 12日（金）～2024年 5月 27日（月）

# 準備書への意見提出について

## 意見書の提出について

「環境影響評価準備書」について、環境の保全の見地からご意見をお持ちの方は、縦覧場所に備え付けの用紙に記入の上、意見書箱にご投函頂くか、下記問い合わせ先にご郵送ください。

### ○記載事項

住所、氏名、意見（意見の理由を含む）

### ○提出期限

2024年 5月 27日（月）まで（当日消印有効）

### ○問い合わせ先

〒163-0443

東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル43階

カナディアン・ソーラー・プロジェクト株式会社 志賀 宛